



教皇様の聲

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1994 発行所
財団法人 精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
TEL 0797-31-3452・FAX 0797-31-3448

聖霊の力で 私たちは生れ変わる

★「神は天と地をつくられた。それが始まりであった。地はととのわず、むなしく、闇が底知れぬふちを覆い、水の上に神の息吹が舞っていた。」(創世1:1-2)

「神の息吹が舞っていた。」
聖なる三日間の最後を飾る復活徹夜祭の今宵、私たちは天地創造の始まりへと引き戻されます。闇に包まれていた大聖堂に詩篇の叫びが響き渡り、典礼朗読の中でごまを返しています。「あなたが息を送れば彼らはずくられ、地の面は新たにされる。」(詩篇104:30)
「主よ、息吹を送り、地の面を新たにしてください。」(答唱)

私たちは創造の始まりに戻ると共に、キリストが十字架からおろされ、墓に納められたあのエルサレムの夜を深く体験しています。

神であり、人である御方の死は新しい創造の始まりを画します。キリストは世界を一新するため死をお受けになりました。キリストの死によって、生命をもたらす霊の到来を求める願いは決定的な、力に満ちた効果的なものとなりました。

★きのう、十字架の道行のあとへブライ人への手紙の一節が読まれました。「ましてや、永遠の霊によって汚れないご自分を神に捧げられたキリストの御血が、私たちの良心を死の業から清めて、生きる神に奉仕させないであろうか。」(9・14)

十字架上のいけにえは、キリストの完全な成就です。キリストはそれを永遠の霊と「共に」果たただけでなく、いけにえの内に聖霊を受け、使徒たちと教会と人類に

「自らをお与えに」なりました。復活の後、イエズスは高間に集まった使徒たちに自らを表し、彼らに息を吹きかけてこう言われます。「聖霊を受けよ。あなたがたが罪を赦す人にはその罪が赦される。」(ヨハネ20・22-23) 聖

霊は十字架の力によって、世の贖いという限りない源を用いて、地の面を新たにします。全く新しい人間を作り、人々の心と良心を新たにします。愛によって、まさしくこの超越の夜、死と罪(すなわち魂の死)よりも強いことが示された愛によって、全ては新たにになります。

★そういうことで、キリストの誕生以来、復活徹夜祭は洗礼を受けるためのまたとない機会となりました。

ここ聖ペトロ大聖堂で、ローマの司教は喜びにあふれて信仰における新しい兄弟姉妹たち、これから洗礼を受ける人々を迎えます。私たちはその証人であり、参加者です。世界各国から集まった皆さん、これが「死者からよみがえられ、もう死ぬことのない、もはや

死は何の力も及ばせない」(ローマ6・9参照)キリストへの信仰です。

★詩篇作者の叫びは皆さんの上に成就します。「主よ、息吹を送り、地の面を新たにしてください。」(答唱)：その息吹は最初から、親しく創造の業に加わっていました。水の上に舞っていた息吹は、洗礼の秘跡に際して水によって人間に新しい生命を授けます。生命の与え主、聖霊の力が注がれるのです。「水と霊」(ヨハネ3・5)による新たな誕生：キリストの超越の、最初の秘跡。この秘跡と共に私たちは「主が作られた日」を迎えます。皆さん

んの上に、エゼキエルの預言が成就しますように。神が皆さんに新しい心を与え、新しい魂をおいてくださいますように。神の掟と定めを守り行わせてくださいますように。皆さんは神の民となり、主は皆さんの神とならんことを。(エゼキエル36・26-28参照)
生きる人々の地(詩篇27(26)・13)に長く住むことができますように。

復活徹夜祭は、その予告です。実にそれは新しい天と新しい地(黙示録21・1)の始まりであり、そこでは神が「すべてにおいてすべて」(エペソ15・28)なので。(九一、聖土曜日)

テレビは両刃の剣

(…) テレビは家族生活を豊かにします。テレビは家族員を一致させ、他の家族やさらに広い共同体との連帯感を育てます。一般教養を増すばかりでなく、宗教上の知識をも高めるので、人々は神の言葉を聞き、信者としての自覚を強め、道徳生活と霊的生活をつちかうことができます。

●他方、テレビは家族生活を害することがあります。下劣な価値観や行動のお手本を伝えたがり、ポルノや非道な暴力シーンや放映したり、宗教への疑いや道徳的相対主義を植えつけたり、

ニュースや時事問題があるいは歪め、あるいは操作の手を加えて放送したり、卑しい本能に訴えかける儲け第一の広告宣伝を流したり、相互の尊敬や正義、平和を実現することを妨げるような偽りの人生観をほめ称えたり、といった場合です。

●番組が道徳的に見て不都合な家族にとってよくない影響をおよぼし得るのです。テレビのために家族メンバーが自分の世界に閉じこもり、真の人格交流を断ち切ることがあります。また、親を子供

から、子供を親から引き離し、家族を分裂させてしまう場合もあるのです。(…)

テレビを見る時間は親が決める

最も強調したいのは、親と、テレビ業界で働く人々と、政府の当局者、そして司牧・教育の任務を帯びる教会関係者の責任です。テレビが家族を助け、社会と道徳の刷新という役割を果たすためのさら

に効果的な手段となり得るかどうかは、この人々次第だからです。神は両親に重大な責任を与え、子供たちが「ごく幼いときから真理を求め、真理に従って生き、善を愛し、育てる」(九一年の世界平和の日のメッセージ、3番)よう援助することをお命じになりました。ですから、子供たちが「全ての真、全ての気高いこと、全ての正しいこと、全ての聖なること、全ての愛すべきこと、全ての誉れあること」(フィリッピ4・8)を理解できるように教えるのは、親の義務なのです。

● 従って親としては、見識をもつてテレビを見るにとどまらず、子供たちに健全な人間的・道徳的・宗教的成長へとつながる良い視聴習慣を身につけさせるべきです。親はあらかじめ番組の内容をよく調べ、家族の益を考えて良心に問いかけ、チャンネルを回すかどうかを決めます。宗教的な機関や他の責任あるグループが健全なメディア教育番組と共同で提供する論評や評価はこの点、役に立

ちます。さらに親はテレビについて子供たちと話し合い、テレビを見る時間数と内容を自分でコントロールするよう、また、番組の背後にある道徳上の価値観を見分け、判断できるよう指導しなければなりません。家庭とは「自分自身のアイデンティティを身につけるために必要な宗教的・文化的価値観を伝える恵まれた場」(九四年世界平和の日のメッセージ、2番)なのです。

● 子供によい視聴習慣を育てるという事は、時には単にテレビのスイッチを切る事です。

他にもっと良いことがあったり、他の家族メンバーのためにそうしなければならなかったり、無差別にテレビを見ると害になる、などの理由です。テレビを子守りしてくれる電気製品と見なし始

「十字架のメッセージ」は特に皆さんに向けて発せられていま

● 望をもつて受け入れ、愛をもつて証してください。よく見えないという苦しみに、見捨てられたかのような思いと孤独が伴うことを皆さんはよくご存じでしょう。ですから皆さんが完全に視力を取り戻し、生きる

けっ放しにする親は、子供たちの最初の教育者としての役割を放棄してしまっているのです。こんなふう

● 親たちが番組制作者やプロデューサーに対し、真剣な関心を持つ

喜びと家族や社会のために役立つ

● 苦しむという恐るべき現実を味わう時

● 公會議は、司教の任務と責任について述べる中で、教

教会シリーズ 18 (前号からの続きです。)

教え、聖化し、治める司教

国家権力からの独立

6 「生活条件の關係上、主任司祭の通常一般の司牧的配慮を十分に受けることができないか、あるいはまったく受けられない信者、例えば数多くの移住者、亡命者、避難民、船員、航空機搭乗員、遊牧民、その他これに類する人々のことを、特に配慮しなければならぬ。急用のために一時的に他の地方に滞在する人々の靈的生活の向上のために、適切な司牧の方法を考慮しなければならぬ。」(教会における司教の司牧任務に関する教令、18番) 新旧

7 任務を果す時、司教は自らを規制する社会構造と権力にも立ち向かわなければならぬ。司教は使徒たちが従った自由と愛の福音の規範によって行動します。ペトロとヨハネが衆議所の前で言ったことはあらゆる場合に当てはまるでしょう。「神をおいてあなたたちに従うことが神の御前に正しいかどうかは、あなたたちが判断しなさい。私たちが

8 公會議は、司教の任務と責任について述べる中で、教

十字架の秘義

● 苦しむという恐るべき現実を味わう時

【近刊案内】 世の光イエズス・キリスト「カトリック教会のカテキズム」要約Q&A………定価一三〇〇円、千三〇〇円

一昨年聖座の認可を受け出版のはこびとなった「カトリック教会のカテキズム」をもとに書き下ろされた、問答形式でわかりやすい要理書です。四月中頃出版予定。お申し込み・お問い合わせは精道教育促進教会まで。

教皇様の動き(九四・二月)

霊的な力、つまり祈りと断食から引き出せる力が不足しているように思える」と語られた。

●2・20 家庭についてのお話。「離婚や不倫、自由恋愛を美化するマス・メディアは、家庭を攻撃しているも同然である。」「同性愛の合法化は道徳上、容認できない。」「これらの行為は家庭の意味を歪め、弱めてしまう。」「罪人を理解することは、道徳規範をゆるめることではない。」

●2・26 四旬節の黙想会の最終日に、「福音宣教は神のわざであると同時に人間のわざ、つまり教会のわざである。」

●2・27 レバノンの教会爆破の知らせを受け、「レバノンのために祈ろう。爆破は神と神の子、聖なる場所に対する犯罪である」と断罪された。

●2・17 ローマ教区の聖職者に、「主は悪魔、それゆえ悪は祈りと断食によらなければ追い出せないと言われた。時々私たちの

●2・14 ボッセイ・エキュメニカル・インスティテュートで、「キリスト者の一致は神の賜です。人間の努力がどれほど成功しても、巧みに計画されていても、それだけで私たちの分裂を癒すことはできません。祈りこそ、エキュメニズムの魂です。」

●2・13 お告げの祈りの際に。「真の愛とは単なる感情や盲目的な情熱のことではない。」「家族は愛の最初の学舎であり、同時に永遠の学舎である。」

●2・5 ロザリオの時間に「戦争はもういらぬ。理性と兄弟愛が勝利を得んことを」と祈られた。

●2・10 教皇庁家庭評議会主催の「家族及び生命倫理に関する諸問題」セミナー参加者に、「教会は家庭を守ることによって社会に貢献する。家族の一致がなければ進歩はあり得ない」と話された。

●2・11 病者の日(ルルドの聖母の祝日)にあたり、「キリストは人間の苦しみにも光を当ててくだ

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

●2・2 主の奉獻の祝日に際し「キリストは皆さんが生ける神殿となるよう招いておられる。」

兵士に対する霊的世話はその典型的な例でしょう。聖座の長年に渡る慣例に従って、特別の司教の任命が公会議で定められています。「兵隊の霊的世話については、彼らの生活条件が特殊であるために、特別な配慮が必要である。従って各国において、できる限り従軍代理区を設立すべきである。」(43番)

重要な一致と協力

10 司教任務の実行と同じように複雑で困難ではありませんが、このような新しい活動分野において、司教が司教団の一人として具体的に日々の大小さまざまな任務を遂行する時には、兄弟愛と使徒的交わりにおける互いの一致と協力が必ず必要です。この点に關して公会議は次のように述べています。「特に現代において、司教は、他の司教たちとますます堅く一致協力して働くよう努めなければ、自分の任務を適切に実行豊かに果すことはほとんど不可能である。」(前掲書、37番)

当然ながら、司教任務を実行する際のポイントは一致と協力です。ペトロとそれに続く教会の牧者たちが望んでいたように、(エフェゾ4・12、コロサイ2・19、Iコリント12・12以下、ローマ12・4・5他参照)「キリストの神秘体を築く」ことを望むなら、この面で私たちはより一層忠実になければならないのです。(九二・一八)

社会に生じた深刻な危機の一つは、教会共同体としては、特別に意を注ぐべき問題ですが、「神の善からのすばらしい贈り物」(「家庭」30番)である人命を軽視していることです。カナダでの最近の出来事を見ると、自殺補助もしくは安楽死を、不治の病にかかった希望者に対して施すことは道徳的に容認できると説く人々に、皆さんは勇気をもって反対しておられる。司教として、黙っているわけにはいきません。生命は責任をもって守られるべきであ

自殺補助は認められない

り、誰であれ直接に自己の、または罪もない他者の命を、行為によつて、あるいは怠慢のために断つことは許されない(「カトリック教会のカテキズム」nn. 226、229参照)と説かれたのです。治療(通常の可能な手段を全て用いた)と殺害との間の境目を取り払ってしまえば、一國の道徳的・精神的な健全さは大きな打撃を受けて、弱者や傷つきやすい者を恐るべき危険にさらす羽目になりかねません。いわゆる「尊厳死の権利」を法的

に認めさせようとする人々には、そのような個人の尊厳を侵す行為を合法的に勧めたり、許したりするような権利は誰にもありはしないことを思い起してもらわねばなりません。(教理省の安楽死に関する宣言、一九八〇年五月五日、2番参照) 生命という最高の贈り物についての基本的・道徳的真理を危うくするような法律は、現代風の全体主義への道を開くものです。全体主義は、超越的な真理を否定した結果、人間の真の尊厳を否定するに至りました。(「新しい課題」44番参照)(…) (カナダ司教団へ、十一・十九)

不変の教え

メディアの誤用を許してはならない

国際家族年に寄せて

■年齢や文化条件を問わず、全ての人がマスコミ情報の受け取り手であり受益者です。従って、マスコミが有益な影響を及ぼす可能性も大きくなっていると同時に、情報操作の危険も増大します。種々の刺激、メッセージ、生活モデルが倫理上の広範な影響力をもって流布されています。従って「なんらかの手段で情報の複製や宣伝の業務に従事して

いるすべての人」には、大変な責任があるのです。すなわち回勅「新しい課題」(38、39番)の言うヒューマン・エコロジー(人間環境)に関わる道徳的な責任です。実際、マスメディアは環境汚染に劣らぬ悪影響を人の心に及ぼすことがあり得るからです。そういうわけで、教育においてまず最初の責任者である両親、様々なレベルでマスメ

ディアに関わる人々、そして公的機関の緊密な協力態勢を推進する必要があります。家庭が教育という重要な使命を果す上で、道しるべもなく放り出されることのないようにするためです。

国際家族年を機会に、適切な家族政策のための法律制定を求める声が各方面から出ています。こうした政策がかなりの程度、法に左右されることは確かです。公会議も次の箇所でのことを示唆しています。「公権が国民の福祉について配慮することは正しいことであるが、それと同様に、公報機関の悪用によって良俗と社会の進歩に重大な危害が加えられないよう

に、法の制定とその確実な施行をもって、正しく注意深く監視することもまた政府の任務である。この注意深い監視のために個人と団体との自由が抑圧されることは決してない。」(公報機関に関する教令、12番) 聖座が發布した「家族の権利章典」は、次のように宣言します。「家族は社会通信の各手段が社会を築き上げるための有益な道具となり、家族の基本的価値を強める手段となるよう求める権利を持つ。」(5条以下) マスメディアにおけるポルノと暴力に関する文書で、教皇庁公報評議会は述べています。「立法担当者、行政官、法の執行機関、法

の専門家は、メディアにおけるポルノと暴力の問題に目をつぶらず、立ち向かわなければならぬ。適切な法律がなければ制定し、弱ければ強化し、現行の法を補強するべきである。」(28番) もっと早くこれらの訴えが取り上げられていたら、どれほど家族、若者、特に子供たちへの害悪が避けられたことでしょうか。状況が真剣に受け取られ、すぐに適切な手が打たれたなら、どれほど将来の道徳的・社会的損失を食い止められることでしょうか。(…)「(家族の権利とマスメディアに関するセミナー)参加者へ。 九三・六・四)

本当の夫婦愛

回勅「フマーネ・ヴィテ」で教皇パウロ六世は、婚姻が有する二つの本来の意味、すなわち一致の意味と出産の意味とを意図的・人為的な手段を使って分けてしまうことが非道徳的であることを再確認しました。(14番参照)

この教えは過去25年間、教会内で何度も繰り返して述べられたものです。(たとえば使徒的勧告「家庭」29、30番参照)「カトリック教会のカテキズム」もはっきりと確認しています。(2370番参照) とは言え、説明

が不十分で不適切だったために、多くのカトリック信者がこれらの教えを実行するのに困難を覚えたという事実があることも確かです。体と結婚に関する真理に従って生きるとき、人間の性の持つ尊厳と喜ばしさをよく理解して、まらわなければなりません。結婚希望者たちの指導その他、結婚と家族生活を守るための司牧活動において、結婚の愛を完全に、結ぶように招く神の計画の真理を、余すところなく人々に伝えねばなりません。(九三・六・四、ローマを訪れた米国公使団に。)

「カトリック教会のカテキズム」は必ずや、ここ数年來の神学上の動揺のため方向を見失っている信者たちに確信を取り戻させ、力づけ、偽預言者に従って道に迷った人々をまことの信仰の源へと連れ戻してくれることでしょう。(…)

聖体祭儀は、要理教育のための最初の重要な機会となります。当然ながら、その他の祭儀の機会をもうまく使って、信仰の内容について説明したり、信者と教会の絆を深め示すことも必要です。私の念頭に

確かな信仰の指針

生命についての効果的な証明、及びすばらしい要理教育の機会を提示してください。また、結婚の祭儀も、愛と家庭についてのキリスト教の教えを列席者にわかりやすく説明する機会を司祭に提供してください。洗礼の秘跡の執行も、参列者全員に、司祭の動作と言葉を通して、自分の受けた洗礼とそこから生じる結果について考えさせる機会となります。(…)

神学の勉強、信仰、そして教会のよきメンバーであること。この三点を生活の中でうまく統合するのは、神学生たちにとって困難な

問題です。別に驚くべきことではありません。困難をくぐり抜けるのは、正常であり、評価すべきこととさえ言えましょう。困難は信仰を成熟させ、教会への責任感を養ってくれるからです。しかしそのためには、注意深い司牧上の支えが必要です。そこで心からお勧めしたいのですが、神学生のための霊的指導を行い、彼らの信仰を襲うさまざまな危険に注意を怠らぬことです。(…)

(九三・一・十一、オランダ司教団に)

※「教皇様の声」編集部では、皆様からのご意見、ご希望をお待ちしています。本紙をお知りになったきっかけ、記事のご感想など、どんなことでも結構です。〒0000 兵庫県神戸市船戸町十二の六(財)構造教育促進協会までどうぞ。

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説なしに そのまま伝える月刊紙 ■毎月十日発行 ■定価 一部八十円 送料実費 ■一年予約九百円 送料七百円 ■二千部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 3-72393